

「もんじゅ」はどこへ オピニオン

脱原発を訴えるあの元首相は言った。核燃料サイクルも「今やめた方がいい」。確かに、その軸とされる高速増殖炉「もんじゅ」の実用化は全く見えない。目指すべき道はどこなのか。

店じまいへかじを切れ



村上 誠一郎さん
衆院議員

52年、愛媛県生まれ。衆院議員秘書を経て、86年衆院選で初当選。以来、9期連続当選。財務副大臣、国務大臣などを経て、現在、衆院政治倫理審査会会長。

処理法については可及的速やかに経済産業省が方針を策定すべきである」と、泣く泣く婉曲的な表現にしたんです。

そもそも核燃料サイクルは、高速増殖炉でプルトニウムを燃料として利用できるならば意味があった。燃やした以上のプルトニウムを生み、それをうまく利用できれば、もともとの燃料であるウランの利用効率は飛躍的に上がる。経済的にも見合います。しかし、期待された「もんじゅ」は研究・開発がほとんど頓挫しているわけです。

しかも高速増殖炉がシビアアクシデント(過酷事故)に見舞われたら、ほとんど未知の領域です。いまは福島第一原発事故の収束と、その他の原発の安全性を確保するだけで精いっぱい。そのうえに高速増殖炉の研究・開発というのは、荷が重すぎるんじゃないの？

私が経産大臣だったり、政調会長だったり、職務権限があったらいつでも政治判断を下して

やるっちゃうの！」そろそろ店じまいの方向にかじを切ったらどうなの「ってね。

判断基準はいろいろあるけど、最終的には財政なんだよ。

政府債務残高は名目GDP(国内総生産)の200%超。高速増殖炉が安全に実用化できるようになるまでには、大変な経費と時間がかかるでしょう。推進していくというのは無理筋じゃないか。それが私の結論。

こういう重要な問題を深く考え、正論を言う人間は排斥されるんだ。官邸は原発の再稼働と輸出を急いでいるから、苦言を呈する人間はアウトサイダーになっちゃう。調べたことをこうやって、こつこつと示していくしかないんだよ。

(聞き手 磯村健太郎)

エネルギー政策や原子力政策をどうするか。日本の将来にとって極めて重要です。しかしね、最近はそのようなことを勉強しようという雰囲気さえないんだ。国会議員は700人以上いるけど、問題の本質を掘り下げ、じっくり考える人がいなくなってきたね。放射神経で面白いことを言うパフォーマンスばかり。マスコミが持ち上げるからだよ。

私は、自民党「福島原発事故究明に関する小委員会」の委員長です。安倍首相に先月、事故の早急な収束などを求める提言書を渡しました。これ、実はお盆前には用意できていたんです。その時点では「使用済み燃料棒の処理法については10年以内に結論を出すこと」「それまでは原発の新規建設を見送る」と書いていました。

ね、政治家の良心に照らせば当たり前じゃないですか。科学者とも議論し、まじめに書いたんです。ところが経済産業省OBや、訳の分からない議員連中がじゃまをする。「官邸の意向に沿わない」「みたいなことを、やいのやいのと言ってくる。しょうがなく「核燃料の最終